

涌泉寺事件(鹿ヶ谷の陰謀)

安元元年
(1175)

A

加賀国国守

知行権を奪回

(1175)

(平家一門)

藤原基家

(後白河法皇の側近)

藤原師光(西光)

母は信西の
乳母

(1176)

加賀国守に就任

もろたか

藤原師高

兄

もろつね

藤原師経

弟

目代に就任

加賀国の寺社や貴族の
荘園を没収する暴政

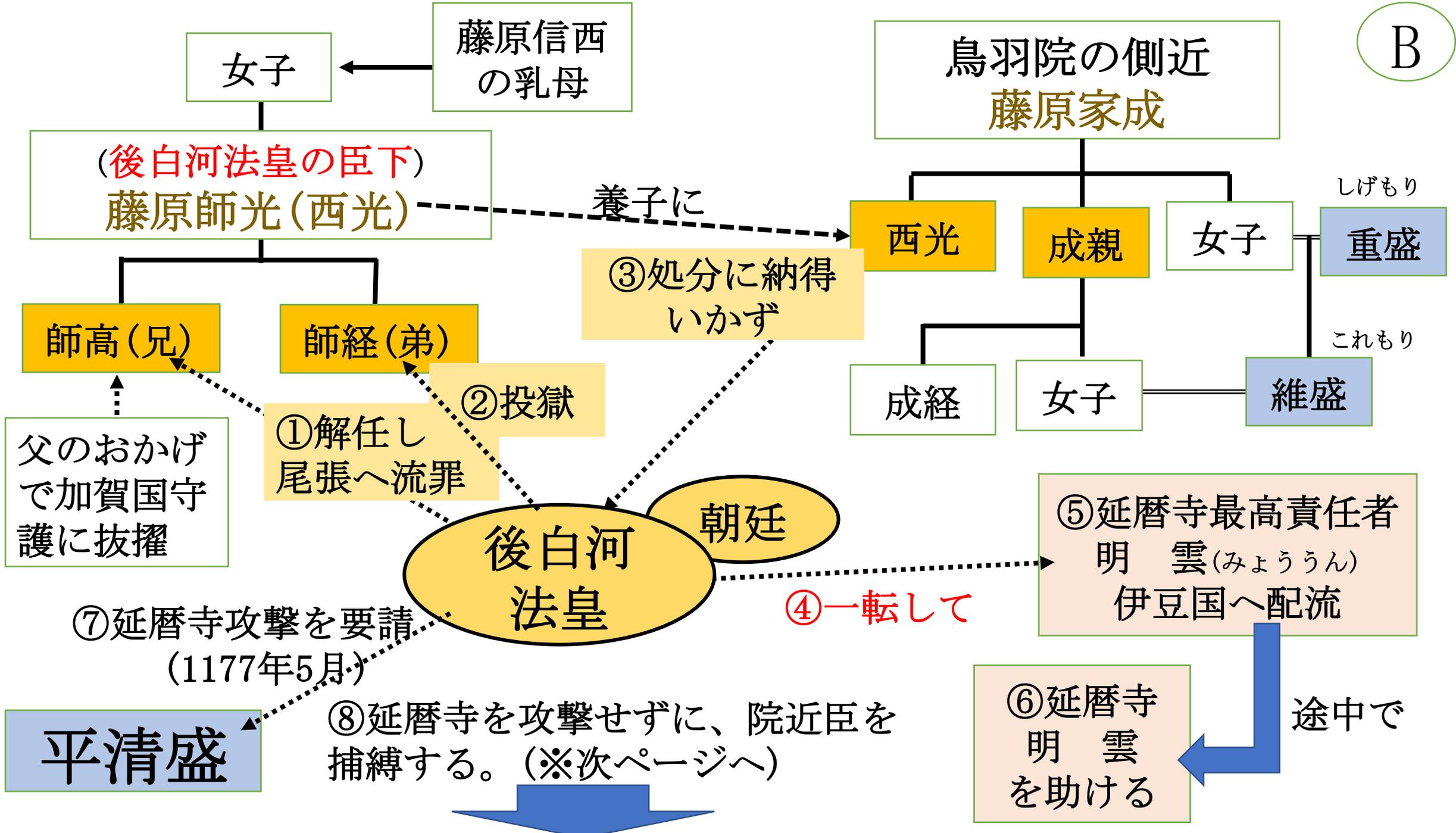
白山僧侶は、神輿を担いで比叡山(延
暦寺)に向かい、朝廷に処分を申し入れ。

<涌泉寺は比叡山の末寺>

白山僧侶は一斉に蜂起し、目代館を
襲撃したが、目代は京に逃げた。

目代として加賀国に赴任途中、白山
中宮八院の一つ、鵜川涌泉寺で、僧侶
が入浴中に馬で乱入、僧侶を追い出し
自分が入浴し、更に馬を洗わせる。

大げんかとなり、僧侶は馬の足を切り、
射合い、斬り合い。目代は、在庁官人
数千人を集め、涌泉寺を焼き払う。



ところが事態が一変する

C

鹿ヶ谷の陰謀
(俊寛僧の館)

(1177年6月)

俊寛

④「それをどう
する？」

藤原成親

①飲み会で成親が立ち上がった
際、瓶子(へいし)を倒した

西光

③「瓶子(へいし)
が倒れました」

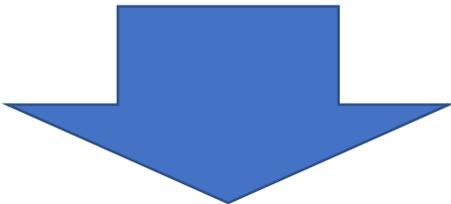
後白河
法皇

⑤「首を取るしか
ないでしょう」と
言って、瓶子の首
を折った。

②「あれは如何に」

源行綱

平清盛に「鹿ヶ谷の山荘で、後白河法皇の院近臣たち
が、平氏を倒さんと計画しているようです」と密告する

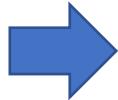


関係者は捕縛され

後白河
法皇



罪は問われなかった



しかし、精神的
ショックで弱体化

俊寛



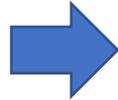
薩摩国の鬼界ヶ島へ流罪

藤原成親



備前国に流したうえ、
崖から落とし殺害

西光



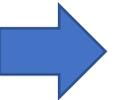
口を切られ、首を斬り落とされる

師高(兄)



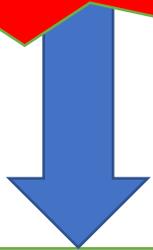
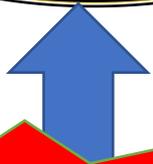
殺される

師経(弟)



殺される

関係悪化



平清盛